

このパソコンを お使いいただく前に

このマニュアルにはVC733J/5、VC667J/5に関する他のマニュアルとの差分情報がまとめられています。
このパソコンに添付されている他のマニュアルをご覧いただく前に、必ずご覧ください。

VALUESTAR
VC733J/5 VC667J/5

このマニュアルの目次と内容

添付マニュアルと添付品の差分について	3
このパソコンの型名、型番、添付のアプリケーション CD-ROM、添付マニュアル、添付品、「サポートセンタ」(電子マニュアル) の変更情報です。	
本体背面の各部の名称について	4
『もっと知りたいパソコン』付録の「本体の各部の名称」(p.137) の変更情報です。このパソコンでは、IEEE1394 コネクタ (6 ピン) は本体背面の PCI スロットに搭載されています。	
本体背面に取り付けることができる周辺機器について	6
『もっと知りたいパソコン』PART1 の「本体背面に取り付けることができる周辺機器」(p.3) の変更情報です。	
このパソコンでは、IEEE1394 コネクタ (6 ピン) は本体背面の PCI スロットに搭載されています。	
本体内部に取り付けることができる周辺機器について	7
『もっと知りたいパソコン』PART1 の「本体内部に取り付けることができる周辺機器」(p.4) および PART6 の「PCI ボードについて」(p.62) の変更情報です。	
音声出力について	8
『もっと知りたいパソコン』PART1 の「光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子」(p.11) および 「サポートセンタ」の変更情報です。	
Windows 2000 Professional を利用するときの注意	13
Windows 2000 Professional を利用する場合の変更情報です。	
機能仕様について	14
『もっと知りたいパソコン』付録の「機能仕様」(p.139 ~ 143) の変更情報です。	

© NEC Corporation 2000
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

Microsoft、MS、Windows、および Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

添付マニュアルと添付品の差分について

●このパソコンの型名、型番について

次のマニュアルに記載されている型名、型番は、ご購入いただいたパソコンの型名、型番とは異なります。

- ・『はじめにお読みください』
- ・『もっと知りたいパソコン』
- ・『困ったときの Q&A』

ご購入いただいたパソコンの型名、型番は次のとおりです。

型名	型番	表記の区分			
		本体の形状	内蔵CD-R/RW ドライブ・ DVD-ROMドライブ	ディスプレイ	添付 アプリケーション
VC733J/5FD	PC-VC733J5FD	コンパクトタイプ	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	液晶ディスプレイセットモデル (15型液晶)	Office 2000モデル
VC667J/5FD	PC-VC667J5FD		CD-R/RWモデル		
VC667J/5XD	PC-VC667J5XD			液晶ディスプレイセットモデル (14型液晶)	

●添付されているアプリケーション CD-ROM について

このパソコンに添付されているアプリケーション CD-ROM には、ご購入いただいたモデルの型番は記載されていません。正しいものが添付されているかどうかは、アプリケーション CD-ROM に記載の ID 番号で確認できます。

アプリケーションCD-ROM

	Vol.1	Vol.2
ID	336-930033-400-A	336-930036-400-A

●セットアップ、再セットアップの手順について

・セットアップを行うときの注意

『はじめにお読みください』PART3 の「使用許諾契約に同意する」の手順 9(p.49)の画面は表示されません。そのまま読みとばしてセットアップを行ってください。

・再セットアップを行うときの注意

『困ったときの Q&A』PART3 の「購入したときと同じ状態にする(標準再セットアップ)」の「6.Windows Me の設定をする」の手順 6(p.81)を行わずに再セットアップをしてください。

手順 5 の操作の終了後、Windows Me のデスクトップ画面が表示されます。

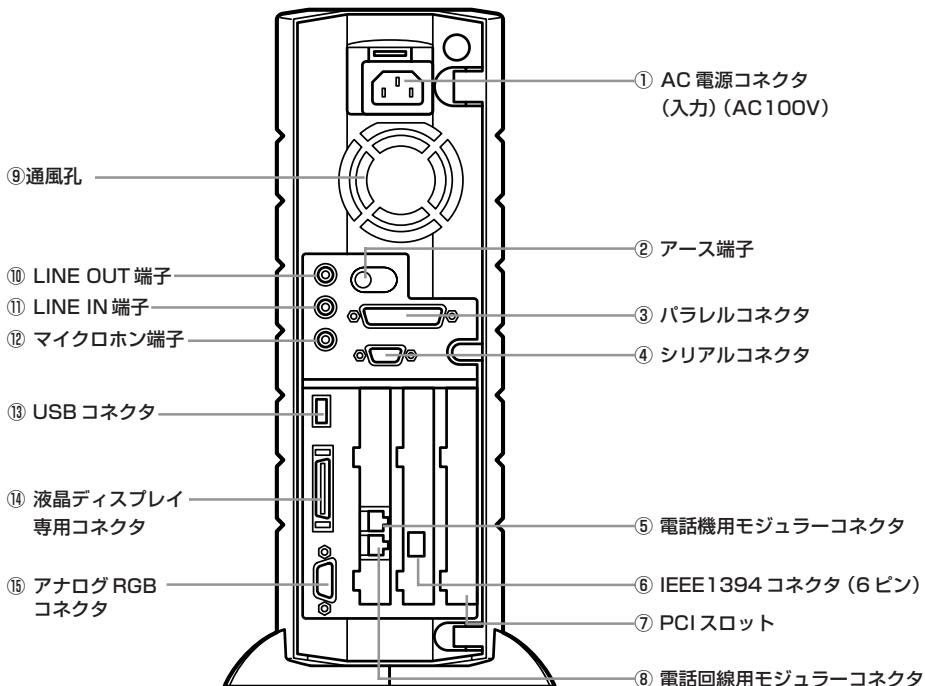
●他の添付マニュアルとの差分について

「サポートセンタ」(電子マニュアル)や『もっと知りたいパソコン』に記載の内容とこのパソコンの仕様は一部異なります。これらのマニュアルをご覧になるときには、先にこのマニュアルで変更内容を確認してください。

本体背面の各部の名称について

各アイコンの向きは、下の説明と異なることがあります。

図はリアカバーを外した状態です。



① AC 電源コネクタ (入力) (AC100V)

ACコンセントから本体に電源を供給するためのコネクタ。添付の電源ケーブルを接続します。本体添付の電源ケーブルは、ACコンセント側が普通の2ピン、本体側が特殊な3ピンになっています。

② アース端子 (⏚)

アース線を接続するための端子。

③ パラレルコネクタ (□)

プリンタなどを接続するためのコネクタ。

チェック!!

PC-9800シリーズ用のプリンタケーブルを接続する場合は、別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)が必要です。PK-CA101は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)と一緒に取り付けることはできません。

④ シリアルコネクタ (□□□)

周辺機器を接続するためのコネクタ。

通信を行うときに必要な通信機器や、イメージスキャナなどの周辺機器を接続します。

チェック!!

・PC-9800シリーズ用の機器を接続する場合は、別売のRS-232C変換アダプタ(PK-CA102)が必要です。PK-CA102は別売のプリンタインターフェース変換アダプタ(PK-CA101)と一緒に取り付けることはできません。

・周辺機器によっては、変換アダプタを使用すると動作しないことがあります。

⑤ 電話機用モジュラーコネクタ (☎)

電話機を接続するためのコネクタ。

⑥ IEEE1394 コネクタ (6ピン)

IEEE1394対応機器(6ピン)を接続するためのコネクタ。

⑦ PCI スロット

本機の機能を強化したり拡張したりするための各種ボードを、挿入するためのスロット。高速なデータ転送ができるPCIバスに対応。

⑧ 電話回線用モジュラーコネクタ (□)

電話回線を接続するためのコネクタ。

⑨ 通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。壁などでふさがないように注意してください。

⑩ LINE OUT 端子（ステレオ）()

添付の外付けスピーカや市販のオーディオ機器などに、音声信号（ステレオ）を出力するためのミニジャック端子。

⑪ LINE IN 端子（ステレオ）()

市販のオーディオ機器などから、音声信号（ステレオ）を本体に入力するためのミニジャック端子。

⑫ マイクロホン端子（モノラル）()

市販のマイクロホンを接続するためのミニジャック端子。

⑬ USB コネクタ ()

USB 対応機器を接続するためのコネクタ。
USB コネクタに接続する周辺機器が本機で使用できるかどうかは、周辺機器の製造元または発売元にご確認ください。

⑭ 液晶ディスプレイ専用コネクタ（LCD）

セットの液晶ディスプレイを接続するためのコネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

⑮ アナログ RGB コネクタ（  ）

アナログRGB対応ディスプレイを接続するためのコネクタ。

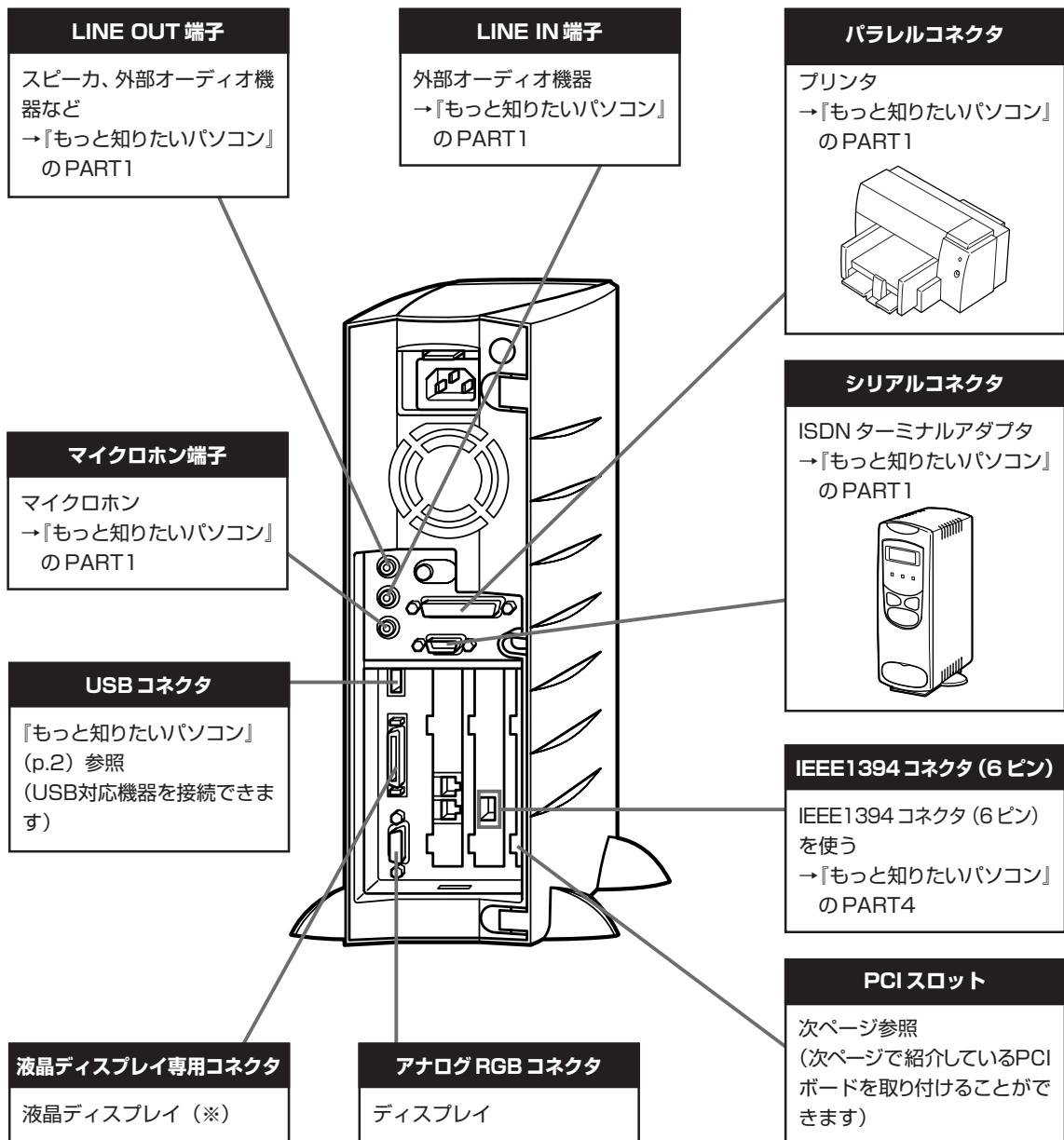


このコネクタに別売のディスプレイを接続して2台のディスプレイを接続してもマルチモニタサポート機能は使えません。

本体背面に取り付けることができる周辺機器について

下の図はリアカバーを外した状態です。「マイクロホン端子」「LINE OUT 端子」「LINE IN 端子」「パラレルコネクタ」「シリアルコネクタ」「IEEE1394 コネクタ(6ピン)」「PCIスロット」「アナログRGBコネクタ」に周辺機器を取り付けるときは、リアカバーを外す必要があります。リアカバーの外し方については『もっと知りたいパソコン』PART2の「リアカバーの外し方」(p.31)をご覧ください。

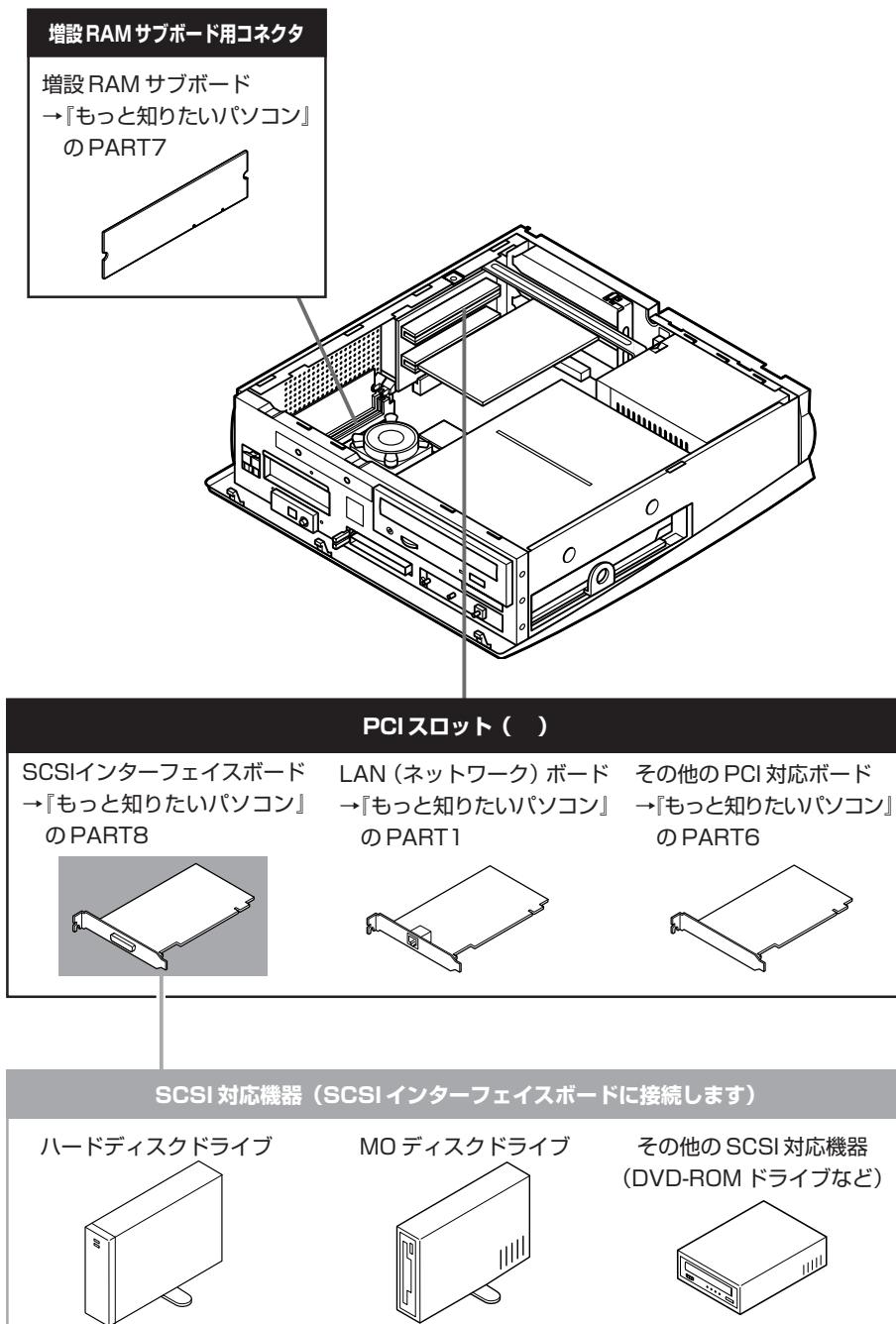
□ 参照 リアカバーの外し方→『もっと知りたいパソコン』PART2の「リアカバーの外し方」(p.31)



※ セットの液晶ディスプレイを接続する専用コネクタです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。

本体内部に取り付けることができる周辺機器について

下の図はルーフカバーを外した状態です。



※ PCIスロットには、IEEE1394ボードが標準で取り付けられているため、新しくPCIボードを取り付けることができるPCIスロットは1つだけです。
標準で取り付けられているIEEE1394ボードを取り外して、別のPCIボードを取り付けた場合はサポートの対象外になります。

音声出力について

●音楽 CD を光デジタル出力する方法について

音楽 CD を再生していない状態で「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」の「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「CD-ROM」の左の \oplus をクリックし、表示された CD-ROM デバイスをダブルクリックします。「プロパティ」タブをクリックし、「この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする」を \checkmark にして、「OK」をクリックします。音楽 CD の再生音を「サウンドレコーダー」で録音する場合は、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」、「ボリュームコントロール」の順にクリックします。
- 2 「オプション」をクリックして、表示されたメニューの中から「プロパティ」をクリックします。
- 3 「録音」を選択して、「OK」をクリックします。
- 4 「Recording Control」が表示されたら、「ステレオミックス」を選択します。

●光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力設定の変更方法について

S/PDIF の出力設定の変更は次のように行います。

・Creative SB AudioPCI (※) の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」の「デバイスマネージャ」タブで「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の \oplus をクリックし、「Creative SB AudioPCI (WDM)」をダブルクリックします。「設定」タブをクリックし、アウトプットモードを変更します。

オートセンス：光デジタルケーブルを接続したときは、光デジタルを出力します。ヘッドホン、スピーカーを接続したときは音声を出力します。

デジタル：光デジタルのみを出力します。ディスプレイのスピーカ、LINE OUT 端子から音声は出力されません。

アナログ：光デジタルオーディオ出力、ディスプレイのスピーカ、LINE OUT 端子から音声を出力します。

・YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC (※) の場合

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「ヤマハ DS-XG 設定」の「デジタル出力」タブでデジタル出力モードを変更します。

OFF：光デジタルオーディオ出力、ディスプレイのスピーカ、LINE OUT 端子から音声のみを出力します。

ON (デジタルソースのみ)：光デジタルケーブルを接続したときは、光デジタルを出力します。ヘッドホン、スピーカーを接続したときは音声を出力します。

ON (すべて) / 通常出力は消音：光デジタルのみを出力します。ディスプレイのスピーカ、LINE OUT 端子から音声は出力されません。

ON (ダイレクト)：このパソコンでは使用できません。

※ ご購入の機種によって表示されるサウンドドライバ名は異なります。ドライバ名は「サポートセンター」「パソコンの情報」「詳細」で確認することができます。

●音が出ないときは

サウンドドライバに原因があることが考えられます。サウンドドライバを更新することで、問題が解決する場合があります。サウンドドライバの更新は次のように行います。

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」の「デバイスマネージャ」タブで「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」または「その他のデバイス」の左の \oplus クリックします。次のドライバが表示されている場合は、そのドライバを選択し、「削除」をクリックして削除してください。

- ・「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の「Creative SB AudioPCI (WDM)」
- ・「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の「YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC (WDM)」
- ・「その他のデバイス」の「PCI Multimedia Audio Device」

「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されたら「OK」をクリックしてください。その後、コンピュータを再起動してください。

「サポートセンタ」-「添付ソフトの使い方」-「サウンドの設定」-「音量や入力レベルを調整する」-「表示できる項目と各項目の説明」の表示できる項目の一覧は、お使いの機種によって表示が異なります。

「サポートセンタ」-「パソコンの情報」-「詳細」でサウンドが「Creative SB AudioPCI (WDM)」の場合、表示できる項目は次の表のとおりです。

項目名	音量調節の種類		機能
	再生	録音	
音量の調節	○		スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
WAVE	○		WAVEなどのPCM音源のボリュームコントロールを調整します。
モノラル出力	○		本機では使用できません。
MIDI	○		MIDIのボリュームを調整します。
Phone	○	○	本機では使用できません。
マイク音量	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
ライン入力	○	○	Line inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
CD オーディオ	○	○	音楽CDを再生、または録音するときのボリュームを調整します。
ステレオミックス		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときのボリュームを調整します。ステレオのまま録音されます。

●DVD-Video を再生するときの注意 (CD-R/RW with DVD-ROM モデルの場合)

DVD-Video の再生時に Jet-Audio Player の「DVD エンジンの環境設定」の「オーディオ出力」を「デジタル出力」に設定している場合、液晶ディスプレイのスピーカや、本体背面のLINE OUT端子に接続したスピーカからノイズが発生する場合があります。ノイズが発生した場合はタスクバーのスピーカアイコンをクリックし、表示された音量調節画面でミュートにチェックを付けてください。

※ ミュート中は、光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子からの光デジタル以外の音声を出力できません。光デジタル以外の音声を出力する場合は、ミュートを解除してください。

Jet-Audio Player の「オーディオ出力」を「デジタル出力」にした場合、光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子に光デジタル入力対応のオーディオ機器(アンプ、スピーカなど)を光ケーブルで接続して、DVD-Video の音声を聞くことができますが、DVD-Video の音声を光デジタル入力対応のオーディオ機器で聞かない場合は、「オーディオ出力」の設定を「標準」に変更してください。出荷時の設定は「標準」です。

Jet-Audio Player の「オーディオ出力」の変更方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「Jet-Audio Player」、「Jet-Audio Player」の順にクリックします。
「Jet-Audio Player」が起動します。
- 2 「Jet-Audio Player」の「ラック制御」パネルの「細かい設定」をクリックします。
「細かい設定」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デジタルビデオ」タブをクリックします。
- 4 「DVD エンジンの環境設定 ...」をクリックします。
- 5 「オーディオ出力」タブをクリックします。
- 6 「標準」を選択します。
- 7 「OK」をクリックします。

- 8** 「設定を変更するには、Jet-Audio を再起動してください。」と表示されたら「OK」をクリックします。
- 9** 「OK」をクリックします。
「細かい設定」ウィンドウが閉じます。
- 10** 「Jet-Audio Player」を終了させます。
「Jet-Audio Player」の再起動後、設定が有効になります。

●トーンの調整方法について

次の手順で再生音の音質、マイクの感度を調整できます。

お使いの機種のサウンドドライバによって手順が異なります。「サポートセンタ」-「パソコンの情報」-「詳細」-「サウンド」でサウンドを確認して、設定してください。

・Creative SB AudioPCI (WDM) の場合

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」、「ボリュームコントロール」の順にクリックします。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。
- 2** 設定に必要な項目が表示されていない場合は、メニューの「オプション」-「プロパティ」で表示したい項目名にチェックを付けて、「OK」をクリックします。
- 3** メニューの「オプション」をクリックし、「トーン調整」の左側にチェックが付いていない場合は、「トーン調整」をクリックします。
- 4** 「ボリュームコントロール」、「MIDI」、「マイク音量」の項目に表示された「トーン」をクリックします。
設定画面が表示されます。

次の表を参考にトーン調整を行ってください。

	トーン調整	そのほかの調整
ボリュームコントロール	本機では使用できません。	「Wide」にチェックを付けるとCD、WAVE、MIDIなどの音声に3Dワイド効果がかかります。
MIDI	本機では使用できません。	・「Reverb」にチェックを付けると、MIDIデータの再生音にリバーブ効果がかかります。 ・「Chorus」にチェックを付けると、MIDIデータの再生音にコーラス効果がかかります。
マイク音量	本機では使用できません。	「マイク優先度」にチェックが付いていると、マイクの感度が高くなります。ハウリングを起こす可能性がありますので、マイクの音量を低めにしてからチェックを付けてください。

・YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC (WDM)の場合

－マイクの感度を調整する場合

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」、「ボリュームコントロール」の順にクリックします。
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。

- 2** 設定に必要な項目が表示されていない場合は、メニューの「オプション」-「プロパティ」で表示したい項目名にチェックを付けて、「OK」をクリックします。
- 3** メニューの「オプション」をクリックし、「トーン調整」の左側にチェックが付いていない場合は、「トーン調整」をクリックします。
- 4** 「Microphone」の項目に表示された「トーン」をクリックします。
設定画面が表示されます。

次の表を参考にトーン調整を行ってください。

	トーン調整	そのほかの調整
Microphone	本機では使用できません。	マイクの感度を調整します。「Mic 20dB」にチェックを付けるとマイクの感度が高くなります。ハウリングを起こす可能性がありますので、マイクの音量を低めにしてからチェックを付けてください。

– 「MIDI」の再生音質を変更する場合

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンをダブルクリックします。
「ヤマハ DS-XG 設定」アイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。
- 3** 「シンセ」タブをクリックします。

次の表を参考にシンセサイザーエフェクトの設定を行ってください。

	シンセサイザーエフェクト
MIDI	<ul style="list-style-type: none"> ・「リバーブ」にチェックを付けると、MIDIデータの再生音にリバーブ効果がかかります。 ・「コーラス」にチェックを付けると、MIDIデータの再生音にコーラス効果がかかります。 ・「バリエーション」にチェックを付けると、MIDIデータの再生音にバリエーション効果がかかります。 ・「SONDIUS-XG」にチェックを付けると、MIDIデータの再生音にSONDIUS-XG効果がかかります。

※「MIDI」のそれぞれの効果の説明は「ヤマハ DS-XG設定」の右上の  をクリックし、調べたい項目をクリックすると表示されます。

●MIDI デバイスの変更方法について

次の手順で MIDI デバイスを変更できます。

・MIDI デバイスの変更方法

- 1** 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「サウンドとマルチメディア」アイコンをダブルクリックします。
「サウンドとマルチメディア」アイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。
「サウンドとマルチメディアのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3 「オーディオ」タブをクリックします。**
- 4 「MIDI 音楽の再生」で「優先するデバイス」を変更します。**

次の表を参考に MIDI デバイスの変更を行ってください。

お使いの機種のサウンドドライバによって選択できる項目が異なります。「サポートセンタ」-「パソコンの情報」-「詳細」でサウンドを確認してください。

	Creative SB AudioPCI (WDM) の場合	YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC (WDM) の場合
使用できる MIDIデバイス	<ul style="list-style-type: none"> · Creative SBPCI Synthesizer · Microsoft GS Wavetable SW Synth 	<ul style="list-style-type: none"> · YAMAHA DS-XG Synthesizer (WDM) · Microsoft GS Wavetable SW Synth

※ それぞれ「Microsoft GS Wavetable SW Synth」選択時はリバーブ、コーラスなどで MIDI の音質の変更はできません。

・ MIDI の Waveset の変更方法 (Creative SB AudioPCI (WDM) の場合のみ)

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「コントロールパネル」の順にクリックします。**
- 2 「システム」アイコンをダブルクリックします。**
「システム」アイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する」をクリックしてください。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。**
- 4 「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の+をクリックします。**
- 5 「Creative SB AudioPCI (WDM)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。**
- 6 「設定」タブをクリックします。**
- 7 「MIDI シンセサイザー Waveset」で変更したいWavesetを選択して、「OK」をクリックします。**

※ 初期設定は「2 Megabyte General MIDI」です。「4 Megabyte General MIDI」、「8 Megabyte General MIDI」に変更することができます。

※ 「2 Megabyte General MIDI」→「4 Megabyte General MIDI」→「8 Megabyte General MIDI」の順に音質が向上します。

Windows 2000 Professional を利用するときの注意

Windows 2000 Professionalを利用する場合は、「アプリケーションCD-ROM Vol.2」にある次のファイルに書かれている説明をご覧ください。

E:\Win2k\Readme.txt

ただし、内容を次のように変更してセットアップを行ってください。

・「2.2 Windows 2000 のセットアップ」の手順 14 と手順 15 を行わずに、セットアップをしてください。

・「2.8 内蔵サウンド対応ドライバのセットアップ」は次の手順で行ってください。

- 1 CD-ROM ドライブに「バックアップ CD-ROM (2枚目)」をセットする
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」をクリック
- 3 次のように入力する
D:
CD ¥WIN2K¥SOUND
COPYMODU
- 4 「処理が完了しました。次の手順を実行してください。」と表示されたら、次のように入力してコマンドプロンプトを終了する
EXIT
- 5 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
- 6 「システム」をダブルクリック
- 7 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」ボタンをクリック
- 8 「その他のデバイス」の「マルチメディアオーディオコントローラ」をダブルクリック
- 9 「ドライバの再インストール」ボタンをクリック
- 10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 11 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリック
- 12 「場所を指定」のみをチェックし、「次へ」ボタンをクリック
- 13 「D:\WIN2K\SOUND」と入力し、「OK」ボタンをクリック
- 14 「ハードウェアデバイスのドライバファイル検索が終了しました。」と表示されたら、「次へ」ボタンをクリック
- 15 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリック
- 16 ファイルの上書きの確認画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリック
- 17 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 18 「閉じる」ボタンをクリック
- 19 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリック
- 20 本機を再起動する

以上で、内蔵サウンド対応ドライバのセットアップは終了です。

機能仕様について

VC733J/5、VC667J/5

モデル	VC733J/5FD	VC667J/5FD	VC667J/5XD
CPU	Pentium®III プロセッサ (733MHz) キャッシュメモリ32Kバイト セカンドキャッシュメモリ256Kバイト (CPUに内蔵)	Pentium®III プロセッサ (667MHz)	
メモリ	BIOS ROM メインRAM RAM※1 ディスプレイキャッシュ ビデオRAM	512Kバイト、プラグ&ブレイ対応 64Mバイト※2 ユーザーズメモリ 63.6Mバイト DIMMスロット×2 (うち1スロットに64Mバイトメモリを取り付け済) 最大256Mバイト 4Mバイト (SDRAM) 8~11Mバイト※2	
	グラフィックアクセラレータ	Intel®810E Chipset内蔵	
	グラフィック表示	640×480ドット 800×600ドット 1,024×768ドット 1,280×1,024ドット※3	16色/256色/65,536色/1,677万色※4 256色/65,536色/1,677万色※4 256色/65,536色/1,677万色※4 256色/65,536色/1,677万色
	キーボード	ワイヤレス接続、JIS標準配列(英数、かな)、109キーレイアウト準拠、CD/DVDプレーヤボタン、ボリュームボタン、電源スイッチ、ワンタッチスタートボタン、テンキー・12ファンクションキー付き	
	マウス	ワイヤレス接続、スクロール機能付きマウス	
補助記憶装置	ハードディスク※5	約30Gバイト※6 Windows® Millennium Editionをインストール済	
	CD-R/RW with DVD-ROM・CD-R/RW	CD-R/RW with DVD-ROM内蔵 読み込み：最大4倍速 (DVD-ROM) ：最大24倍速 (CD-ROM) 書き込み：最大4倍速 (CD-R) ：最大4倍速 (CD-RW)	CD-R/RW内蔵 読み込み：最大32倍速 (CD-ROM) 書き込み：最大8倍速 (CD-R) ：最大4倍速 (CD-RW)
	5型ベイ	1スロット (CD-R/RW with DVD-ROMまたはCD-R/RWで1スロット占有済)	[空きスロット0]
	内蔵3.5型ベイ	1スロット (ハードディスクで1スロット占有済)	[空きスロット0]
	PCIスロット	2スロット (IEEE1394ポートで1スロット占有済)	[空きスロット1]
拡張スロット	PCカードスロット	Type II × 2 (Type III × 1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠 Card Bus対応	
	サウンド機能※7	音源 PCM録音再生機能：ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート4~48KHz、全二重対応 (モノラル、量子化8ビット時)、ウェーブテーブルシンセサイザー機能搭載 (GM演奏モード対応)、最大同時発音数64音、Downloadable Sound (DLS) Level-1対応	
	スピーカ	エンハンストステレオ対応 液晶ディスプレイに内蔵	
通信機能	データ通信	最大送信33.6Kbps／最大受信56Kbps、V.90、K56flex、V.34、V.32bis、V.32、V.22bis、V.22、V.21 エラー訂正V.42/MNP4、データ圧縮V.42bis/MNP5	
	FAX通信	最大14.4Kbps (V.17)、FAX制御 CLASS 1	
インターフェイス	ディスプレイ	アナログRGBセ/パレート信号出力 (75Ωアナログインターフェイス、ミニD-Sub 15ピン)、液晶ディスプレイ専用 (専用30ピン) ※8	
	オーディオ	入力 マイク入力 (モノラル) 入力インピーダンス 10kΩ 入力レベル最大100mVrms ゲイン20dB ライン入力 (ステレオ) 入力インピーダンス 10kΩ 入力レベル最大2Vrms ゲイン-6dB 出力 ライン出力 (ステレオ) 出力レベル最大1Vrms (負荷インピーダンス47kΩ)、光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力	
	プリンタ	パラレルインターフェイス (D-Sub25ピン)	
	シリアル	最大115,200bps (D-Sub 9ピン)	
	USB※9	本体 1ポート内蔵 ディスプレイ 2ポート内蔵	
	IEEE1394	2ポート内蔵 (6ピン×1、4ピン×1)	

VC733J/5、VC667J/5

モデル		VC733J/5FD	VC667J/5FD	VC667J/5XD
カレンダー時計		電池によるバックアップ		
電源		AC 100V±10%、50/60Hz		
温湿度条件		10~35°C、20~80%※10(ただし結露しないこと)		
外形寸法	本体	106 (W)×337 (D)×315 (H) mm (突起部除く) 155 (W)×361 (D)×325 (H) mm (スタビライザおよびリアカバー取り付け時)		
	キーボード	382 (W)×179 (D)×40 (H) mm		
質量	本体	約7.4kg	約7.7kg	
	キーボード	約0.9kg ※12		
消費電力※11	標準構成時	約56W	約54W	約44W
	内蔵オプション 最大接続時	105W	103W	93W
	スタンバイモード時	約26W		

- ※ 1 利用OSにより、使用可能なメモリ容量は異なります。
- ※ 2 ビデオRAMは、メインRAMを使用します。表示領域として使用するのは、この一部です。
- ※ 3 本機にセットの液晶ディスプレイでは表示できません。
- ※ 4 ディザリングにより1,619万色となります。
- ※ 5 ハードディスクの容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より小さく表示されることがあります。
- ※ 6 Windowsのシステムからは、約27.9Gバイトと認識されます。
- ※ 7 サウンド機能を利用したアプリケーションソフトのうちハードウェアを直接制御しているものは、一部使用できないものがあります。
アプリケーションソフト購入に際しては、発売元に確認してください。
- ※ 8 セットの液晶ディスプレイを接続する専用ポートです。セットの液晶ディスプレイ以外は接続できません。
- ※ 9 接続する周辺機器および利用するソフトウェアが、本インターフェイスに対応している必要があります。
- ※ 10 18~28°C、45~75%での使用を推奨します。
- ※ 11 セットの液晶ディスプレイの消費電力を含みます。
- ※ 12 乾電池の重量は含まれておりません。

VALUESTAR
VC733J/5 VC667J/5
**このパソコンを
お使いいただく前に**
初版 2000年11月
NEC
P
853-810108-002-A

このマニュアルは再生紙(古紙率:本文100%)
を使用しています。